様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：２７１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６７７０２９４

研究課題名（和文）市民社会を支える理念とモラリティ：スロヴァキアの第一世代のNGOを事例として

研究課題名（英文）Morality for the Civil Society: The first generation of Slovak NGOs in a provincial city

研究代表者
神原　ゆうこ（KAMBARA, Yuko）

北九州市立大学・基盤教育センター・准教授

研究者番号：５０６１１０６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は市民活動を支える理念ないしモラリティについて考察することが目的としており、具体的にはスロヴァキアの地方都市における体制転換後の市民活動の展開に注目している。一概に市民活動といってもその中には宗教団体と深く関わる団体も含まれる。スロヴァキアにおいて、市民が活動する領域の拡大は、宗教団体が復権する過程とパラレルであった。これらの活動を支える人々に共通して重要なのは、イデオロギー的なモラリティではなく、自律的に活動できる空間を確保することであった。

研究成果の概要（英文）：This study aims to discuss on the morality or belief to support civil activism, through the research on the development of civil activism following the end of socialism in a Slovak provincial city. In fact, civil activism is composed of not only NGOs but also religious associations organizing social engagements. In Slovakia, people have become able to strengthen their civil society simultaneously, while religious associations have revived in public sphere. The possibility of self-governance in their society is more important for those who are engaged in society than ideological morality as the mission to society.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学　市民社会　モラリティ　スロヴァキア　国際研究者交流　宗教団体

１．研究開始当初の背景

中東欧において 1989 年の体制転換は、価値システムの大きな転換を伴うものであった。筆者はこれまで、スロヴァキアにおける社会主義時代から民主主義・資本主義時代への移行期における村落の人々の価値観の変容について、アソシエーション活動に着目して研究を進めてきた。1990 年代以降のスロヴァキアでは、多くの NGO が結成され、「西」側と同様な市民社会の建設が目指されるようになった。しかしながら、大部分の村落はそのような変化と無縁のままであり、村落では社会主義時代から続くアソシエーションが「NGO」を名乗り、本質的な変化なく地域活動を続けていることも多かった。ところが近年、村落でも環境問題や地域振興などの問題解決を目指した有志による NGO が結成されるようになった。その背景には、財源の乏しい地域社会を対象とした民間財団や全国規模の有力 NGO による助成が存在する。人々は自発的に NGO を結成して活動するには、資金が必要であり、その資金を得るためには、スポンサーが想定する市民社会の理念をある程度内面化することが必要とされる。NGO の存在感は世界各地で高まっているが、このような内面化は、ローカルな社会の公的空間における理念やモラリティに影響を与える要因として注目できる。本研究は、このような市民社会を支える理念の現場における形成・操作・流用に注目する。

現地の人々の自発的な活動を支援するために、外国の NGO や財団などは重要な役割を果たして来た。これらの存在自体が欧米との権力関係を反映したものである点については、すでに文化人類学者のあいだで、指摘されてきている[柄木田ほか 2012, 信田 2010, 三浦 2001]。本研究では、これらの議論を踏まえた上で、今後の NGO と市民社会の研究において必要な視点として、活動理念やそれを支えるモラリティの接合・構築を提示したい。あるローカルな NGO が市民社会を支えうると判断され、外部から支援を受けている場合、その存在理由はコミュニティの外部からの規定にも合う形に編成されているといえる。それはスロヴァキアに限らず、他の多くの人類学者のフィールドにおいても同様である。本研究ではこの理念の土着化に注目して、体制転換後の社会で新たに構築されたモラリティのありかたを明らかにしたい。

理念やモラリティに関する問題を考えるにあたって、ポスト社会主義地域は非常に興味深い。というのも、この地域は社会主義の建設と崩壊で二度の価値観の混乱を経験しているからである [Mandel et.al 2002, Zigon 2011]。文化人類学において、モラリティという言葉は西欧起源の概念であり、非西欧社会の分析に持ちこむこと自体に根強い批判がある。しかし、近年のモラリティに関する文化人類学の先行研究では、モラリティを広くコミュニティのなかの価値体系を示す語と捉え、モースの贈与に関する道徳的義務やマリノフスキーの慣習的規範の議論を含む、文化人類学が対象としてきた文化、社会、宗教などの研究の大部分と重複していると考えている[Laidlaw 2001, Zigon 2007]。さらに、かつての規範から相対的に自由になった現代社会において、なお残存する価値観をモラリティの文化人類学の対象とし、その概念を人類学の対象として有効に設定し直している[Faubion 2001, Lambek 2010]。これらの研究において、注目される主な論者は近代以降の社会に適合するモラリティのありかたを思索したデュルケム、権力による価値観の規定を論じたフーコー、および世俗主義が普遍的なようでいて特定の道徳的感性を強いるものであることを論じたアサドであり、宗教とも伝統的価値観とも距離をおいた現代のモラリティの考察が目指されている。本研究は NGO 活動を対象としているが、それを通して考察したいのは、西欧の価値観がそのまま上書きされるわけではないポスト社会主義地域の理念やモラリティである。

参考文献：

柄木田康之・須藤健一（編）2012『オセアニアと公共圏』昭和堂。
信田敏宏 2010「『市民社会』の到来」『国立民族学博物館研究報告』35(2):269-297.
三浦敦 2001「NGO への人類学的アプローチ」『文化人類学研究』2:1-22.
Faubion, J.D. 2001 Toward an Anthropology of Ethics. *Representations* 74:83-104.
Lambek, M. 2010 *Ordinary Ethnics*. New York: Fordham.
Laidlaw, J. 2001 For an Anthropology of Ethics and Freedom. *Journal of Royal Anthropological Institute* 8:311-332.
Mandel, R and C. Humphrey (eds) 2002 *Markets and Moralities: Ethnographies of Postsocialism*. Oxford: Berg.
Zigon, J. 2007 Moral Breakdown and the ethical demand. *Anthropological Theory* 7(2)131-150.
Zigon, J. (ed.) 2011 *Multiple Moralities and Religions in Post-Soviet Russia*. New York: Berghahn.

２．研究の目的

本研究は、市民社会ないし社会的なるものに関する理念の土着化について考察することを目的としている。具体的にはスロヴァキアの地方都市の市民活動に注目し、体制転換後に設立された NGO の関係者が頻繁に語る「コミュニティのため」「人々のため」という言葉の背後にある信念の基盤と政治的、経済的状況を、他の国内外の NGO との交流、資金獲得の情報交換、後進へのエンパワメン

トの現場の参与観察をとおして明らかにしたい。発行資料の言説分析にとどまらず、NGO 同士の連携や情報交換の現場から見えるものに着目することで、最終的には市民の自発性に支えられる社会システムと理念、モラリティの依存関係を明らかにしたい。

３．研究の方法

本研究では体制転換後に成立した NGO のち、1990 年代から 2000 年代前半に結成され現在まで活動を続けている第一世代の NGO に注目する。これらの NGO のいくつかは外国の支援を受け、スロヴァキアに民主主義を定着させるのに積極的な役割を果たしたと現地の親 EU リベラル派の知識人からは評価されてきた。現在、第一世代の NGO の多くは、すでに外国からの支援から離れてスロヴァキア人自身で活動の経験も十分に積み、他の後発団体をリードする存在となりつつあるので、理念の土着化のプロセスを考察する対象として理想的である。

中部スロヴァキアの A 市（人に関わる研究であることを配慮して仮名とする）では、地域振興のために小規模 NGO や各種団体を支援する財団が 90 年代から活動しており（スロヴァキアに同様の財団は 8 つあるが 90 年代から活動しているものは少ない）、本研究の調査として非常に魅力的である。A 市に拠点をおく NGO 関係者のインタビューや参与観察を通して（研究代表者はスロヴァキア語での調査能力をすでに身に着けている）、現代スロヴァキア社会の NGO 活動を支えている理念やモラリティを考察する。

４．研究成果

(1)研究の主な成果

A 市での調査を始めてまもなく直面したのは、キリスト教系宗教団体に関係する NGO の多さであった。とりわけ教育と福祉に関わる分野において、宗教団体と関係する NGO の存在感は大きいものであった。そもそも、1989 年の体制転換をスロヴァキアで支持した社会運動家のなかには、無視できない規模の宗教者、環境運動家とハンガリー系マイノリティが加わっていたことを考えると宗教団体とのかかわりが深いことを理由に、これらの NGO の存在を無視するのは適切ではない。しかし、「市民社会を支える理念とモラリティ」という本研究のテーマと照らし合わせると、宗教団体はその教義を通してすでにある種のモラリティを共有する集団であるため、当初計画していたように、NGO 活動に携わる人々の考えからモラリティを帰納的に考察するならば、宗教というファクターを今一度考察する必要が生じる。

幸い、勤務校である北九州市立大学から特別研究推進費として追加の調査を行う支援を得ることができたため、今回、宗教団体が行う社会貢献活動にも調査対象を広げて研究を進めることができた。さらに比較対象として、宗教団体については A 市以外の拠点での聞き取り調査、世俗団体については、南部スロヴァキアのハンガリー系マイノリティ NGO への聞き取り調査も行い、A 市の NGO 活動状況をスロヴァキア全体のなかで相対的に理解して、事例を分析することができた。なお、文献調査については、最終年度の後半からハンガリーの Central European University に在外研修の機会を得ることができたため、理想的な環境で研究を進めることが可能であった。

本研究の成果は、次の 3 点、①世俗的な市民活動を支えるモラリティの検討、②キリスト教とキリスト教系団体が行う社会貢献活動の当該社会における位置づけ、③①②をあわせたモラリティについての理論的検討、に分類することができる。A 市のような地方都市の場合、市民活動といいつつも、基本的には身の回りの不具合を自分で解決することに力点が置かれることが多い。1990 年代以降、政治的な逆風もあり、なかなか広がりをみせなかった NGO 活動は 2004 年の EU 加盟の前後から一般的なものになり始めた。とはいえ、資金は財団などに依存し、メンバーの多くもボランティアであるケースが多く、活動が安定しているわけではない。ただ、参加者には「自分が必要なものを得るために活動する」という語りが共通しており、その背景には「身近な社会を自身による関与が可能なもの」とみなす認識が存在している。

その一方で、宗教団体は基本的には信仰者のための集団でありながら、市民団体よりもはるかに組織化された社会貢献活動を行っている。個人レベルでは、宗教コミュニティと世俗の団体に両方に関わる人はいるのだが、基本的に両者の領域はあまり交わらない。興味深いのは、宗教も市民活動も体制展開以降の社会のなかで、国家の統制から　自由になる空間を広げるという点ではその活動は相補的な関係にあることである。その意味では、欧米のキリスト教圏においては、ひとつの自治空間を歴史的に維持してきた宗教団体と、（理想としては）自律的に活動する市民の社会空間の類似性はパラレルなものである。世俗の市民団体と教団体に共通するのは、自律的な生活領域を確保しようとする姿勢である。すなわち参加者にとって、それらの活動は、公共のために何かを捧げるという奉仕の精神の表れというよりは、その場が自分が主体的に関わる社会であることの証といえるだろう。

これらの本研究の詳細は、それ以前の研究（07J08945, 23820043）の成果も合わせて記した単著『デモクラシーという作法』（５．主な発表論文等の項目、図書①）および『コンタクト・ゾーン』誌上の特集（同上、雑誌論文①②）として発表した。さらにこれらへ

のコメントを踏まえて発表した、2016 年 5 月に国際人類学・民族学連合中間会議、11 月にアメリカ人類学会年次大会での報告（同上、学会発表①⑥）については、それぞれ投稿論文としての出版をめざして執筆中である。

(2)得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

モラリティは人類学において、繰り返し論じられてきたテーマであるが、宗教領域か世俗領域かにそれぞれ限定された範囲内で議論されることが多かった。そのため、モラリティ自体がイデオロギーになりうる政治的局面に注目した総括的な研究はまだ少なく、NGO を支える人々のモラリティについては、探求の余地があるといえるだろう。また、近年の文化人類学において NGO は開発人類学の文脈で語られることが増えており、より実践的な方向に接続できるポテンシャルを持つと考えられる。

調査の途中で重要視せざるをえなくなった宗教団体が主催する社会貢献活動については、宗教人類学者が中心となって組織された国立民族学博物館共同研究『宗教人類学の再創造』のメンバーと連携をとりながら研究を進めてきた。このメンバーとともに研究成果の出版も予定しており、筆者は社会主義時代による断絶を経た後の宗教団体が主催する社会貢献活動の意義について考察する予定である。宗教学においても、宗教団体の社会貢献は注目されているトピックであり、本研究は当初の想像以上に近接する分野をつなぐ可能性を持っていると考えられる。

(3)今後の展望

本研究は、ヨーロッパ難民危機と同じ時期に調査を行うことになった。難民危機の影響との因果関係は厳密に検討する必要があるが、スロヴァキアでも極右政党が躍進するなど、他のヨーロッパと同じようにポピュリズム的政治傾向が強まっている。今回の調査においては宗教関係者から反イスラム的言説を聞くことはなかったが、キリスト教は中東欧において、反イスラムとして受け入れの旗印として用いられやすい。基本的には NGO 関係者にはリベラル派が多いのであるが、その内部での亀裂も今後は予想される。このような局面に注目した考察が今後は必要だと考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

①神原ゆうこ 2016 「序：公的領域におけるモラリティを文化人類学的に考察するための試論として」『コンタクト・ゾーン』8:2-14.（査読無）

②神原ゆうこ 2016 「市民としての実践と宗教者としての実践：スロヴァキア地方都市における社会貢献活動を支えるモラリティの基層」『コンタクト・ゾーン』8:45-60.（査読無）

③神原ゆうこ 2016 「【書評】松嶋健著『プシコ・ナウティカ—イタリア精神医療の人類学』」『文化人類学』81(1):137-140.（査読有）

④神原ゆうこ 2015「『共生』のポリシーが支える生活世界：スロヴァキアの民族混住地域における言語ゲームを手がかりとして」『年報人類学研究』5:45-71.（査読有）

〔学会発表〕（計　13　件）

①Yuko KAMBARA 2016.11.20 Moralities between Civil Society and Religiosity: the confrontation of Christian social engagements and secular community work in a Slovak provincial city. *115th Annual Meeting of American Anthropological Association*, Minneapolis /USA.

②Yuko KAMABARA 2016.11.4 Reconfiguring the Other: Political narratives by the Hungarian minority in southern Slovakia. *Conference of the Hungarian Cultural Anthropological Association*. Szeged/Hungary.

③神原ゆうこ 2016.7.31 「市民社会を支える理念とモラリティ：体制転換後のスロヴァキアにおけるコミュニティ・アソシエーション・NGO に注目して」第 45 回中四国人類学談話会、広島大学（広島県広島市）

④神原ゆうこ 2016.7.30 「『デモクラシーという作法』著者解題」筑波民俗学人類学コロキアム第 15 回公開合評会、筑波大学（茨城県つくば市）

⑤神原ゆうこ 2016.5.21「体制転換後の村落における社会変容と人々の意思と実践：『デモクラシーという作法』自著解題を兼ねて」『体制転換の人類学—東欧、アジア、アフリカにおける体制転換と社会』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アジア・アフリカにおけるハザードに対する『在来知』の可能性の探求—人類学におけるミクロ－マクロ系の連関２」公開シンポジウム、東京外国語大学（東京都府中市）

⑥Yuko KAMBARA 2016.5.4 “Democracy” as a Term for Provoking Political Discourse in Slovakia: Overcoming Political Mistrust.

Inter Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Dubrovnik/Croatia.

⑦Yuko KAMBARA 2015.8.4 Multi-Ethnic Experience Concerning Nationalism and the Cultural Right to Use the Minority Language: From Perspectives of Hungarian Minority Elite in the Southern Slovakia. *The 9th World Congress of International Council for Central and East European Studies*, Chiba /Japan.

⑧神原ゆうこ　2015.7.31「趣旨説明：社会秩序に関するモラリティの人類学について」京都人類学研究会シンポジウム『世俗社会のなかのモラル／モラリティ：世俗的論理と宗教的論理の接合と非接合』、京都大学（京都府京都市）

⑨神原ゆうこ　2015.7.31「世俗的な市民社会における社会活動を支えるモラリティ：『市民』的な意思と宗教者の意思の境界」京都人類学研究会シンポジウム『世俗社会のなかのモラル／モラリティ：世俗的論理と宗教的論理の接合と非接合』、京都大学（京都府京都市）

⑩ Yuko KAMBARA 2015.7.16 Social Engagement and Morality in Secular Civil Society: Social Activists in the Post-socialist Slovak Countryside. *Inter Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences*, Bangkok/Thailand.

⑪神原ゆうこ 2014.12.13 「配慮の語りと共生の語りのジレンマ：南部スロヴァキア民族混住地域における『ハンガリー系マイノリティ問題』に関する文化人類学的考察」ハンガリー学会第３回研究大会、関西外国語大学（大阪府牧方市）

⑫神原ゆうこ　2014.11.29「自治への意志とモラリティ：ポスト社会主義期スロヴァキア地域社会の模索」文化人類学会九州・沖縄地区懇談会／沖縄民俗学会合同研究会、沖縄県立芸術大学（沖縄県那覇市）

⑬Yuko KAMBARA 2014.5.15 “The Way of Self-governance” in the Local Politics of Neoliberalism: A Post-socialist Village in Slovakia. *Inter Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences*, Chiba /Japan.

〔図書〕（計　2　件）

①神原ゆうこ 2016「社会主義へのノスタルジーの背後：スロヴァキア村落部における『革命』の記憶とデモクラシーを実践する試み」『ポスト社会主義以後のスラヴ・ユーラシア世界：比較民族誌的研究』佐々木史郎・渡邊日日（編）、pp.45-70、風響社。（国立民族学博物館出版委員会による査読有）

②神原ゆうこ 2015 『デモクラシーという作法：スロヴァキア村落における体制転換後の民族誌』、350pp、九州大学出版会。（第６回九州大学出版会学術図書刊行助成獲得、審査委員会により査読有）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

６．研究組織

(1)研究代表者
神原　ゆうこ（KAMBARA,Yuko）
北九州市立大学・基盤教育センター・准教授
研究者番号：50611068

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者　なし

(4)研究協力者
Alexandra　Bitušíková
(Matej Bel University, A 市での調査受け入れ先)
Zentai　Violetta
(Central European University, 客員研究員受け入れ先)